図４　アトサヌプリ　赤外熱映像装置による地表面温度分布（北側上空（図３の①）から撮影）
・前回（2019 年７月）の観測と比べて、噴気の状況や地熱域（白破線内）に特段の変化はみられませんでした。

図５　アトサヌプリ　赤外熱映像装置によるＦ１噴気孔群の地表面温度分布（図３の②から撮影）
・前回（2020 年８月）の観測と比べて、噴気や日射の影響で一部の地表面温度分布の見え方に違いがありますが、特段の変化はありませんでした。

図６　アトサヌプリ　赤外熱映像装置によるＦ２噴気孔群の地表面温度分布（図３の③から撮影）
・前回（2020 年８月）の観測と比べて、噴気により地表面が遮られる状況が異なる影響で一部の地表面温度分布の見え方に違いがありますが、特段の変化はありませんでした。

図７　アトサヌプリ　赤外熱映像装置による熊落し火口の地表面温度分布（図３の④から撮影）
・前回（2020 年８月）の観測と比べて、地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

図８　アトサヌプリ　一元化震源による地震活動と GNSS 基線長変化
（1997 年 10 月～2022 年６月、M≧1.2、深さ 20km 以浅）
GNSS 基線グラフは図９観測点配置図中の基線②に対応する。
（防）：国立研究開発法人防災科学技術研究所

・これまでの地震活動及び GNSS 基線長変化の経過を見る限りでは、両者の間に明瞭な相関関係は認められません。

---- アトサヌプリカルデラ
のカルデラ縁(勝井, 1958)＊3

図９　アトサヌプリ　GNSS連続観測による基線長変化（2010年10月～2022年６月）及び観測点配置図
①の破線内の変動（＊１）は、美留和西観測点の凍上によるものと考えられます。
①の破線内の変動（＊２）は、弟子屈(国)付近の樹木の影響及び伐採によるものです。
グラフの空白部分は欠測を示します。
＊３ 勝井義雄（1958）阿寒・屈斜路火山群、地球科学、39巻。

図 10　アトサヌプリ　GNSS 繰り返し観測による基線長変化（2019 年８月～2021 年８月）

・前回（2019 年８月）の観測に比べて、基線長に特段の変化は認められませんでした。

図11　アトサヌプリ　観測点配置図

＋印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

（国）：国土地理院